

FUKUOKA TOKUSHUKAI HOSPITAL

# TEAM



特集

形成外科 形を創り未来を紡ぐ

心療内科・内分泌  
糖尿病内科 心を診る、先へ導く



特集

形成外科

形を創り未来を紡ぐ

身体や機能を再建し、生活の質を押し上げる。

## 九州の先駆けとして 形成外科医療を牽引。

形成外科は、身体に生じた組織の変形、欠損に対して、本来あるべき姿に近づくよう形態のみならず機能的にも再建修復し、生活の質 "Quality of Life" の向上に貢献する、外科系の専門科です。

医療法による一般標榜科として正式な診療標榜を認められたのは1975年で、国立大学で講座として初めて承認されたのが1986年と、大変新しい診療科です。

福岡徳洲会病院の形成外科は1987年に長崎大学形成外科が医師を派遣し開設されました。九州の市中病院形成外科としては創成期から診療を開始しており、36年の歴史があります。

## 24時間、1秒でも早く。 その想いは形成外科も変わらない。

現在当院の形成外科は常時30~40名以上の入院患者数を維持しており、昨年の入院患者総数は754名と、年々増加しております。

また手術件数も2021年は1,400件、2022年は1,340件、2023年は1,395件と、九州のみならず、全国的にも多い手術件数を誇ります。

来院される様々な顔面・四肢を中心とした救急外傷に対して、24時間体制で診療にあたっています。



## 積極的に受け入れ、専門性を発揮。 幅広い診療・手術に取り組んでいます。

### 皮膚腫瘍外科

市中病院として、皮膚、皮下腫瘍、軟部腫瘍や皮膚悪性腫瘍などに対する皮膚・皮下腫瘍摘出術、軟部腫瘍摘出術など、地域に根付いた皮膚・軟部組織に対する手術の専門家として積極的に症例を受け入れ、また精力的に手術を行なっています。

### 再建外科

腫瘍切除後の皮膚欠損、熱傷や外傷などに伴う皮膚壊死、皮膚欠損などに対して、植皮術、皮弁作成術などを行なっています。  
それだけでなく、糖尿病性壊疽や、重度の外傷などで骨や腱、靭帯の露出するような、深部におよぶ壊死・広範囲軟部組織欠損、脳や胸腔、腹腔が開放されるような重篤な病態・外傷に対して、熟練を要する顕微鏡下の血管吻合術や神経縫合術を必要とする遊離皮弁術・筋弁術や血管吻合遊離組織複合組織移植などの再建手術も積極的に取り組んでいます。  
また、口唇や耳介などに生じる先天性疾患に対しても様々な再建手術、眼瞼下垂症手術、顔面神経麻痺の再建手術なども数多くの実績があります。

### 顎顔面外科

前頭骨陥没骨折、頬骨骨折、鼻骨・鼻篩骨骨折、上顎・下顎骨骨折および眼窩骨折、顔面多発骨折など、様々な顔面骨折に対して顔面骨骨折観血的整復固定術・骨移植術を行っています。また陳旧性顔面骨骨折、顎変形症に対して顔面骨骨切り術にも取り組んでいます。

### 熱傷

当院は日本熱傷学会専門医認定研修施設です。乳幼児から高齢者に至るまで幅広い熱傷を受け入れ、初期治療から手術治療、そして治癒後に生じる癢痕拘縮に対する治療まで、一貫して当院で行っています。  
また、化学熱傷や電撃傷などの特殊熱傷、凍傷なども全て受け入れ対応しています。

### 形成手外科

福岡徳洲会病院は、形成外科主体の日本手外科学会認定施設です。  
九州では日本手外科学会認定施設で、かつ形成外科の手外科専門医が在籍している病院は、大学病院を含めても7施設であり、そのうちの1施設が当院です。形成外科医師で手外科指導医・専門医が1名、手外科専門医が1名常勤しております。  
手指の皮膚軟部組織手術、指尖部損傷に対する指尖部再建手術、そして神経縫合や血管吻合などのマイクロサージャリー手術など、形成外科が得意としている軟部組織損傷、顕微鏡下手術にとどまらず、整形外科医がおこなう施設も多い腱縫合術、腱移植術、腱剥離術、四肢の神経麻痺などに対する腱移行術を用いた機能再建手術、さらに靭帯や関節形成・再建術、また手指が主ではありますが骨接合術まで幅広く形成外科で行っています。さらに手指のみならず、手関節、上肢の大切断に対する切断四肢再接合術、広範囲軟部組織欠損に対する組織再建手術、上腕筋欠損に対する広背筋移行術、手指欠損に対する足趾移植術なども当科で対応しています。

### 糖尿病足病変・CLTI

近年下肢血流障害に起因するCLTI、そして糖尿病から生じる末梢神経障害、末梢血流障害、易感染性などに起因する糖尿病足病変は増加の一途をたどっています。  
患部の局所加療から壊死・壊疽の悪化による足趾・足切断のみならず、下腿・大腿切断など大切断も含め、全て形成外科にて手術を行っています。  
また、下肢大切断に至らないように予防・対策していくことが重要です。当院では2022年よりフットケア委員会を発足いたしました。糖尿病足病変に対し、早期から形成外科および心療内科・内分泌・糖尿病内科が介入し、糖尿病重症化予防の研修を受けた看護師と共に足のケアを行っていくことで下肢創傷の悪化を防ぎ、さらにフットケア担当理学療法士の介入により適切な下肢装具の作成を行っています。日本フットケア・足病医学会「下肢創傷処置・管理のための講習会」の受講も終了しており、事務局とも連携し適切な診療加算を得られるよう、フットケアチームとして多職種で下肢創傷に取り組んでいます。

## 市中病院形成外科として救急外来に応え、地域に根ざす。

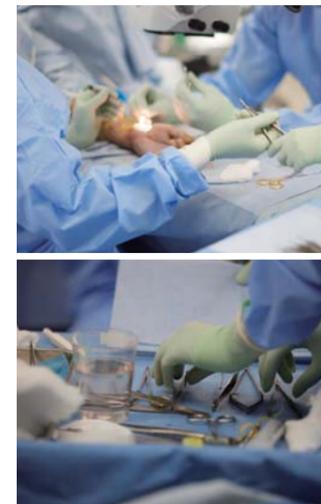
福岡徳洲会病院の理念を継ぐ急患を断らない形成外科として、また市中病院の地域に根付いた形成外科として、様々な外傷・疾患を受け入れ、手術をおこなっています。

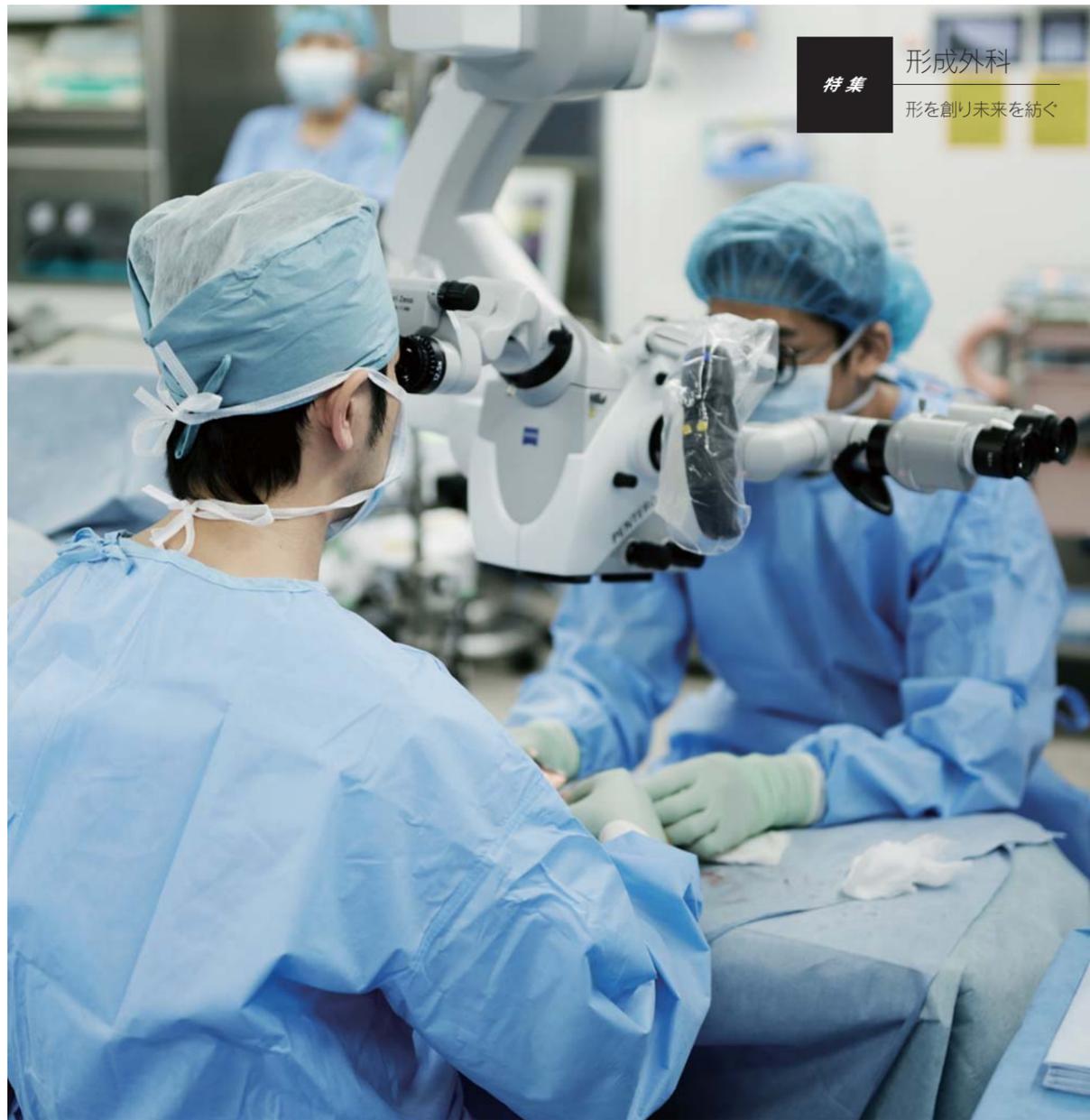
# 3,201名

2023年形成外科新患者数

福岡徳洲会病院 形成外科の患者数・手術件数の推移

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
形成外科新患者数	2,803名	2,669名	3,065名	2,965名	3,201名
形成外科入院患者数	675名	600名	731名	754名	905名
入院手術	833件	777件	992件	936件	1,010件
外来手術	453件	359件	408件	404件	385件
上記合計	1,286件	1,136件	1,400件	1,340件	1,395件
うち全身麻酔手術	656件	590件	821件	724件	742件





**特集** 形成外科  
形を創り未来を紡ぐ

## 福岡徳洲会病院は、形成外科基幹施設です。

目指すのは、「最後の砦」である使命を、チーム医療で果たすこと。

当院形成外科は、筑紫医療圏のみならず、福岡市内や久留米、筑豊、さらに佐賀県、熊本県からも対応困難な外傷性四肢切断、また広範な軟部組織欠損などの重度の顔面・四肢外傷も受け入れており、救急軟部組織外傷の最後の砦として頑張っています。

また市中病院として救急だけでなく、幅広い形成外科領域の疾患に対し適切に対応できるよう、地域に根差した形成外科として日々精進しています。緊急手術を断らない麻酔科の協力を得て、頭部・顔面外傷は脳神経外科や眼科、耳鼻科と、四肢外傷は整形外科と、科の垣根を越えてチームとして治療にあたっています。

新専門医制度が2018年に発足され、医師は研修医の期間が終了すると、19の基本診療科のいずれかで、日本専門医機構が定めるプログラムを5年間研修しないと専門医を取得することができなくなりました。そのため、指導医数や手術件数など、沢山の項目の基準を満たした医療機関が日本専門医機構より基幹施設として認定されています。

- 福岡徳洲会病院形成外科の各種認定**
- 日本専門医機構形成外科基幹施設
  - 日本熱傷学会熱傷専門医認定研修施設
  - 日本手外科学会専門医制度認定医研修施設
  - 乳房再建用エキスパンダー実施施設
  - 乳房再建用インプラント実施施設

## 形成外科 専門医のご紹介

あらゆる症例への対応力を磨き、地域医療を支えます。

形成外科/部長 塩沢 啓 山口大学出身



- 日本形成外科学会・日本専門医機構形成外科専門医
- 日本形成外科学会皮膚腫瘍外科分野指導医
- 日本形成外科学会小児形成外科分野指導医
- 日本形成外科学会再建・マイクロサージャリー分野指導医
- 日本形成外科学会領域指導医
- 日本熱傷学会熱傷専門医
- 日本創傷外科学会創傷専門医
- 日本手外科学会2023年度 代議員選挙管理委員会委員



- 形成外科/部長 西村 剛三 長崎大学出身
- 日本形成外科学会・日本専門医機構形成外科専門医
  - 日本形成外科学会皮膚腫瘍外科分野指導医
  - 日本形成外科学会再建・マイクロサージャリー分野指導医
  - 日本形成外科学会領域指導医
  - 日本熱傷学会熱傷専門医
  - 日本創傷外科学会創傷専門医
  - 日本手外科学会手外科専門医
  - 日本熱傷学会特別会員



- 形成外科/医長 杉原 佳奈 熊本大学出身
- 日本形成外科学会・日本専門医機構形成外科専門医
  - 日本形成外科学会小児形成外科分野指導医
  - 日本形成外科学会領域指導医
  - 日本熱傷学会熱傷専門医
  - 日本創傷外科学会創傷専門医



形成外科 浦田 英樹 福岡大学出身



形成外科 松尾 優実 琉球大学出身



形成外科 松本 紘子 長崎大学出身



形成外科 永田 かほり 久留米大学出身

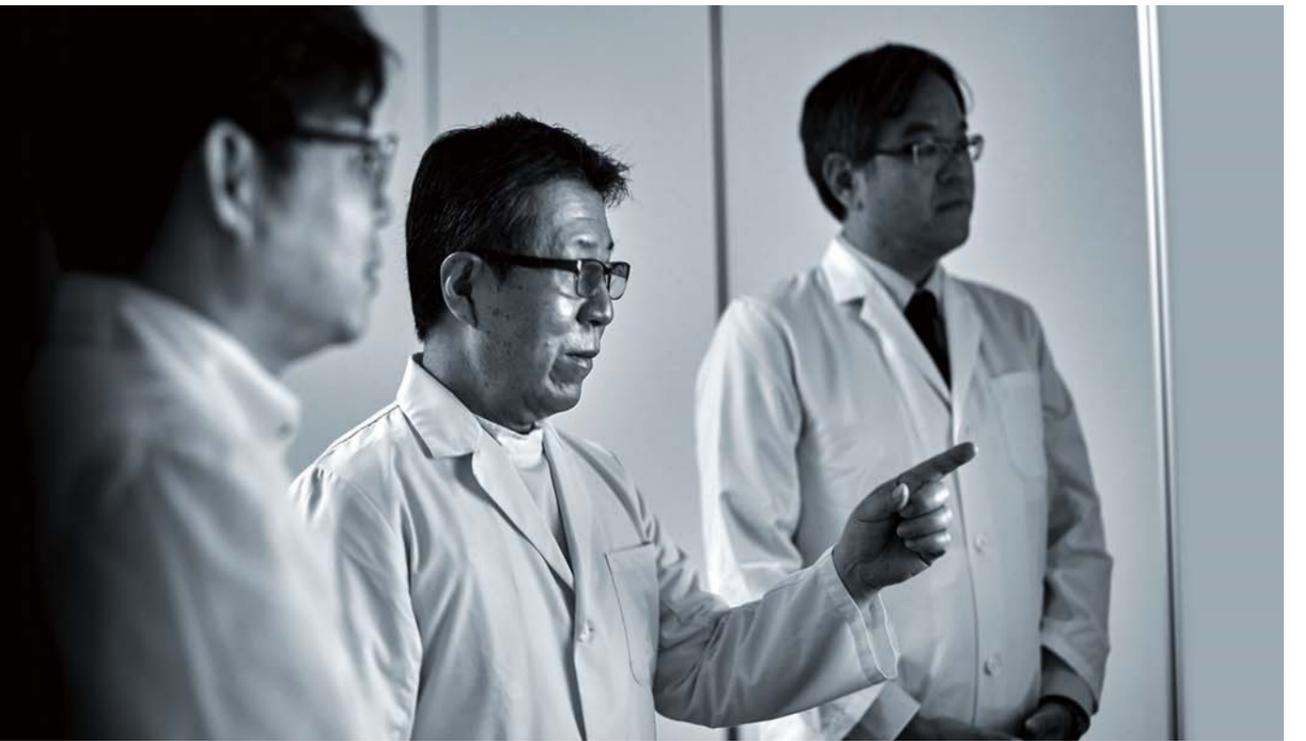


形成外科 坊地 武 琉球大学出身



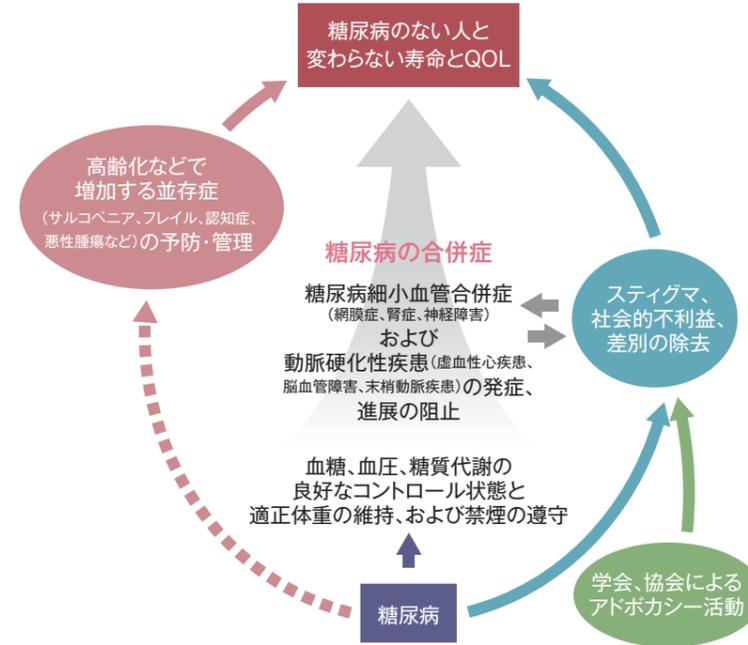
## 糖尿病のない人と変わらない 寿命とQOLを目指して。

現在、国内で糖尿病を持つ人は約1000万人と推定されており、高齢化などを背景にその数は増えていると言われています。当科では一人でも多くの糖尿病を持つ人が「糖尿病のない人と変わらない寿命とQOL」を得るという目標を達成できるよう、院内の各診療部門や院外の医療機関と協力し診療にあたっています。



### 糖尿病を持つ人を、できる限り取り残さない。

糖尿病を持つ1000万人のうち、治療を受けている人は8割弱であり単純計算で200万人以上の方が未治療、治療中断の状態にあると考えられます。未治療や治療中断例では合併症の進展が懸念されます。初期の糖尿病では自覚症状が乏しいため健診などで指摘を受けるケースも多く、当科でも当院健康管理センターをはじめ、各種健診で高血糖を指摘され受診される方に対応しています。初回診断時には病型や合併症などの評価を行い適切な治療方針を決定し、そして継続した受療の必要性をお話するよう心がけています。継続した受診については、近隣の医療機関に「かかりつけ医」としてのフォローアップをお願いする場合も多いです。



参考「糖尿病治療ガイド2022-2023」

### 新しい治療法や 外来治療の体制を整えて。

初回診断時点で著明な高血糖の方や、継続治療中でコントロール困難な方の血糖マネジメント目的のご紹介もお引き受けしております。必要に応じ入院加療を行います。未治療・治療中断は働き盛りと考えられる40歳代に多いことが分かっており、仕事の都合等で入院が難しい方も多く考えられます。当科では必要な臨床検査や療養のための栄養相談、自己注射や自己血糖測定の導入などを外来で実施できる体制を整えていますので、著明な高血糖だが入院が難しいという方についてもご相談ください。当科は日本糖尿病学会認定教育施設として、日進月歩の新しい薬物療法や、既存薬における新しい知見を取り入れた治療を展開しております。isCGM(間歇スキャン式持続グルコースモニタリング)も導入しています。

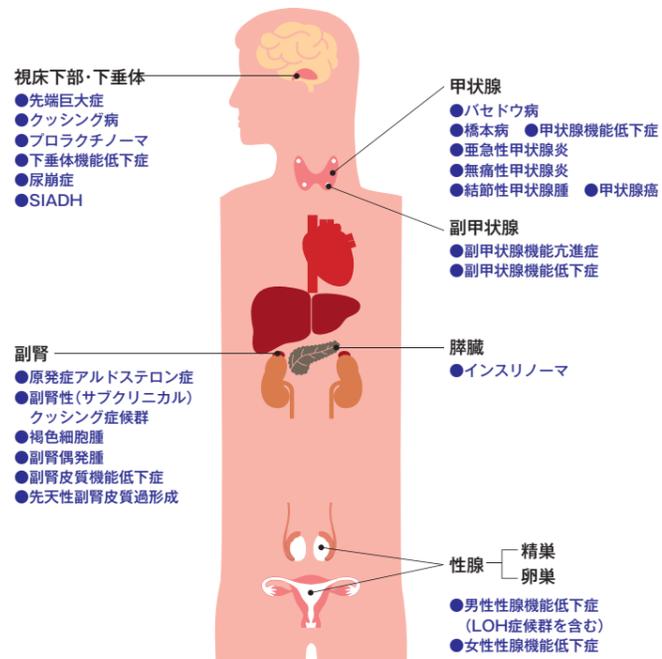
### 血糖値を診るから、全人的に診るへ。

私たちが目指す糖尿病診療は、血糖値を診るだけではなく血圧、脂質、体重、喫煙といった総合的なリスク管理や糖尿病の合併症、併存症にも目を配った全人的な医療です。当院はこれらの合併症や併存症に関連した診療科を多数有しており(眼科、腎臓内科、循環器内科、心臓血管外科、脳神経外科、各種がんの診療科、救急科など)、必要に応じコンサルテーションをしています。当院の総合力で、患者さんを全人的に診療できるのが強みです。





コモンディージーズから稀少疾患まで。 内分泌疾患の豊富な経験があります。



適切な検査を通して、適切な治療へと導く。

内分泌科では各種内分泌検査や機能検査(負荷試験)、甲状腺の穿刺吸引細胞診が実施可能ですので適切な診断を行い、治療法や経過観察の方針を決定いたします。安全上の理由から全てのケースが対象とはなりません。内分泌負荷試験は外来でも実施可能な場合があります。負荷試験が必要だが入院での検査が難しいという方についてもご相談ください。

内分泌疾患に対応する総合力があります。

当院の総合力は内分泌の分野でも力を発揮しています。最近の当科の経験では原発性アルドステロン症の副腎静脈サンプリング、腎血管性高血圧に対する経皮的腎動脈形成術を循環器内科に、甲状腺癌の手術を外科に、先端巨大症の手術やクッシング病に対する海綿静脈洞サンプリングを脳神経外科に、副腎腫瘍(褐色細胞腫)の手術を泌尿器科にお願いし、適切な診断・治療につなげています。



安全を見据えた急性期医療における 内分泌・糖尿病診療

当院は全国有数の救急患者を受け入れる病院であり、また多くの診療科で高度急性期医療、がんの診療を提供しています。これらの患者さんには糖尿病や内分泌疾患をお持ちの方もおられますので、他診療科で手術等の急性期の診療を提供する際の、糖尿病や内分泌疾患に関するコンサルテーションを当科で受けています。常時30~50名程度の入院患者さんを併診の形で担当しています(年間127人)。急性期、周術期の適切な血糖マネジメントは治療後、術後の良好な転帰に貢献していることが示されています。また手術以外でもがん化学療法やステロイドの使用時における血糖マネジメント、免疫チェックポイント阻害薬使用時の内分泌異常の診断・治療など、当科は「緑の下の力持ち」として、これらの患者さんが安全に治療を受けていただくためのお手伝いをしています。

妊娠糖尿病、妊娠時の 内分泌疾患にも対応

当院は地域周産期母子医療センターとして、地域の周産期医療の拠点となっており妊娠糖尿病や内分泌疾患を持つ妊婦さんについても多数の経験を有しています。妊娠糖尿病の管理は年間約60例実施しており、安心・安全な妊娠出産のためのお手伝いをしています。仕事をしている、上のお子さんが小さいなどの理由でご多忙な妊婦さんも多いため、栄養相談や自己血糖測定・インスリン療法導入が外来でスムーズに実施できる体制はここでも当院の強みとなっています。内分泌疾患については甲状腺疾患の方が多いです。元々甲状腺疾患をお持ちであった方が妊娠されたケースや、不妊治療をきっかけに甲状腺機能異常が疑われたケースも担当しています。最新のガイドラインを参考に、適切な治療を提供するよう心がけています。



## 心身両面からアプローチし、総合的に整える心療内科。

心療内科は、病気の発病のきっかけや経過に心理・身体的ストレスなど、心理社会的要因が関与する身体疾患を診る診療科目です。心療内科の特徴として、心身両面からアプローチするいわゆる全人的医療を実践する診療科であることがあげられます。また、神経性やせ症、神経性過食症などの摂食障害や身体症状を有する不安障害・うつ病なども診療の守備範囲として取り組んでいます。

### 近年急増する摂食障害には、寄り添い、耳を傾けることから。

摂食障害は主に若い女性に発症し、遷延化すると治療が困難となる疾患です。神経性やせ症と神経性過食症に分類されます。

神経性やせ症では体重や体型の感じ方が障害されます。患者さんは明らかにやせていても、それを異常と感じられません。やせるために食事量を制限しますが、その反動として過食する方もいます。その場合、嘔吐や下剤の大量使用などにより体重が増えるのを防ぎます。

神経性過食症は、体重は正常ですが、過食・嘔吐の悪循環から抜け出せず、日常生活に大きな支障が生じてきます。食のコントロールができなくなり、頻繁に過食をしてしまう病気です。神経性大食症と呼ばれることもあります。過食に加え、嘔吐など、体重を増やさないための行動が見られますが、どちらも人前では出ない症状のため、周囲は気付かないこともあります。



#### 当科における摂食障害治療

摂食障害の患者さんに接するときは、以下の点を心がけています。共感的、受容的に接すること、道徳的によいか悪いかを判断する態度は避けること、身体症状だけでなく、日常生活での支障も聴取することなどです。

### 臨床心理士と協働し、神経性やせ症の重篤化を防ぐ。

神経性やせ症は、低体重による合併症をきたし重篤な状態に陥ることもあります。神経性やせ症を疑う病歴や行動には、食行動異常(極端な少食、偏食、過食)、下剤や利尿剤の使用、過活動、肥満恐怖、やせ願望、体重・体型へのとらわれ、やせや低栄養状態への自覚症状が乏しい、重篤な身体状態であっても治療を拒否する、大食に見えるが体重が増えない、などが挙げられます。ただし、患者さんは事実を隠すことがあり、行動から慎重に評価します。

#### 当科における神経性やせ症の治療

治療は、食行動の改善、それに伴う身体面の改善(体重増加や月経の回復)、こころや偏った考え方の改善、学校や職場で過ごしやすくなることなどを目標とします。臨床心理士と協働して、認知行動療法、家族療法などの心理療法を用いています。ご本人はあまり受診をたくないという方も多くいますが、ご家族の協力によって受診につながる患者さんも少なくありません。低栄養・低体重のこころや体に対する影響を正しく知ることが治療の第一歩となります。一般にまずは外来治療で治療を行います。低体重が著しい場合や立ち上がった段階を登れなかったりといった体が極端に弱っている場合、このほか体重が急に減った場合や、電解質異常などの体の異常・精神症状が強い場合などに、入院治療を行っています。また、外来治療で改善が見られない場合は、ご本人・ご家族と入院治療のご相談をしています。

#### 当科へのご紹介についてのお願い

摂食障害(疑いを含む)の患者さんをご紹介いただきましたら、当科で専門的に治療させていただきたいと思えます。なお、摂食障害に合併した気分障害(うつ、躁うつ病)の症状が極めて強い患者さん、自傷行為のある患者さんなどは、精神科での治療をお願いしていることをご了承くださいたく存じます。

## 臨床心理士として、患者さん主体の問題解決をサポート。

現代社会は豊かに発展を遂げていますが、その一方で人々は多様なストレスを抱えていると言われてます。同じような苦悩を抱えているように見えても、生活背景やこころの状態は1人1人異なります。そのため個々に合わせた心理支援が重要となってくると考えられるようになってきました。臨床心理士とはそういったこころの問題に取り組む「心理専門職」の証となる資格です。2018年より心理職としては国内初となる国家資格である公認心理師が誕生しました。福岡徳洲会病院では現在常勤心理士3名、非常勤心理士1名が在籍しております。

当院では心療内科医の指示のもと、臨床心理学に基づく知識や技術を用いて日々活動しています。主な活動であるカウンセリングでは、患者さんが抱える問題を聴きながら、その心情や患者さんが置かれている状況の理解に務めることによって、患者さんが主体的に問題解決を行っているように援助を行っています。カウンセリングでは悩みや不安を言葉にすることによって、自分が抱えている問題を整理しやすくなり自分の考えや心理状態に気づき、

一度距離を置いて考える事ができるようになります。

心療内科では心身症と言われる、身体症状に心理社会的背景が密接に関与した病態の患者さんが多くいます。痛みや不眠、食欲に関する事など身体症状を主訴に受診する患者さんに、身体症状と感情や生活習慣との関連を明らかにし主治医と連携し心身両面からの治療を行います。身体症状を強く訴える患者さんには、自分の心理状態や感情に気づきにくいといった特徴を持つ人もいます。

心理士は安心・安全な場所や空間を提供し、無意識に行っていた考え方の癖や行動パターンに気づき、それらをより適応的に変えていくためにどうしたらよいかを話し合います。病態理解には心理テストを用いることもあります。様々な検査があり、必要に応じて組み合わせ実施します。今後もより良い援助が出来るよう日々研鑽を積んでいきたいと思えます。



## ストレス社会に向き合い、繊細なアプローチで最善の治療を。



心療内科・内分泌・糖尿病内科/部長

**田邊 真紀人**

九州大学出身

- 日本内科学会認定内科医
- 日本内科学会総合内科専門医
- 日本内分泌学会内分泌代謝科(内科)専門医
- 日本内分泌学会内分泌代謝科指導医
- 日本糖尿病学会専門医
- 日本糖尿病学会研修指導医
- 日本肥満学会肥満症専門医
- 日本肥満学会肥満症指導医
- 日本メソヘルス医学会テストステロン治療認定医
- 日本内分泌学会評議員
- 日本糖尿病学会評議員



心療内科・内分泌・糖尿病内科

**野中 瑠以子**

川崎医科大学出身

- 日本内科学会認定内科医
- 日本糖尿病学会専門医



心療内科・内分泌・糖尿病内科

**永田 大**

長崎大学出身

- 日本内科学会・日本専門医機構内科専門医



心療内科・内分泌・糖尿病内科/部長

**原 健**

山口大学出身

- 日本甲状腺学会専門医
- 日本内分泌学会九州支部 評議員



心療内科・内分泌・糖尿病内科/部長

**山下 真**

自治医科大学出身

- 日本内科学会認定内科医
- 日本内科学会総合内科専門医
- 日本内科学会指導医
- 日本東洋医学会漢方専門医
- 日本プライマリ・ケア連合学会プライマリ・ケア認定医
- 日本心身医学会研修指導医
- 日本心療内科学会登録指導医
- 日本心身医学会・日本心療内科学会心療内科専門医
- 日本糖尿病学会糖尿病専門医
- 日本糖尿病学会研修指導医
- 日本内分泌学会内分泌代謝科指導医
- 日本内分泌学会内分泌代謝科(内科)専門医
- 厚生労働省認定外国医師臨床研修指導医
- 日本甲状腺学会専門医
- 日本病院総合診療医学会認定病院総合診療医
- 日本病院総合診療医学会指導医
- 日本心療内科学会評議員
- 日本病院総合診療医学会評議員
- 日本内分泌学会功労評議員
- 日本心身医学会功労会員
- 日本甲状腺学会功労評議員
- 福岡大学臨床教授(内分泌・糖尿病内科)



心療内科・内分泌・糖尿病内科/顧問

**松林 直**

神戸大学出身

- 日本内科学会認定内科医
- 日本内科学会総合内科専門医
- 日本内科学会指導医
- 日本心療内科学会登録指導医
- 日本心身医学会研修指導医
- 日本心身医学会・日本心療内科学会心療内科専門医
- 日本糖尿病学会糖尿病専門医
- 日本糖尿病学会研修指導医
- 日本内分泌学会内分泌代謝科指導医
- 日本内分泌学会内分泌代謝科(内科)専門医
- 厚生労働省認定外国医師臨床研修指導医
- 日本甲状腺学会専門医
- 日本病院総合診療医学会認定病院総合診療医
- 日本病院総合診療医学会指導医
- 日本心療内科学会評議員
- 日本病院総合診療医学会評議員
- 日本内分泌学会功労評議員
- 日本心身医学会功労会員
- 日本甲状腺学会功労評議員
- 福岡大学臨床教授(内分泌・糖尿病内科)

特集

フットケアチーム



## リスクを軽減し足を守るフットケア外来

生活習慣や社会環境の変化を背景に糖尿病患者数が増加し、糖尿病から透析導入となる患者さんも増加しています。近年足トラブルをかかえている患者さんも多いため、当院では2022年度より足のトラブルから重症化を予防することを目的にフットケア外来を開設しました。糖尿病足病変のみならず爪白癬・胼胝・白癬など様々な疾患に対応しています。特に糖尿病や透析などで足病変の重症化するハイリスクの患者さんに対し足の状態の観察を行い、足のケア方法の指導や実施、生活指導などを行い、足に関心を持ってもらうように努めています。

また、足と靴に関する知識を持ったシューフィッターによる下肢荷重検査や足部採寸や身体機能評価を元に靴の提案やインソール作成を行い、足病変の予防にも心がけています。

入院期間においても足の爪が伸び過ぎてご自身で切ることが困難な患者さんにも爪の処置を行っており足の痛みを解消することで歩行可能になるケースもあります。

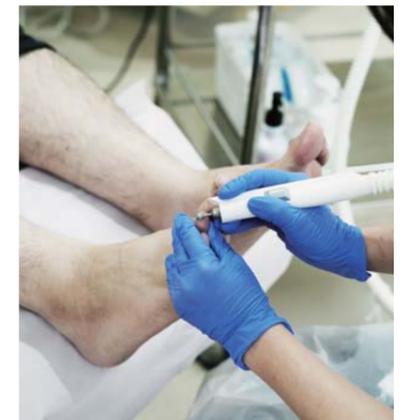
チームは、心療内科・内分泌・糖尿病内科、形成外科の医師、看護師、理学療法士、薬剤師、管理栄養士、事務部門の多職種で構成しています。各専門職種の立場から課題を出し合い解決策を協議し患者さんやご家族に適切な指導、情報提供ができるように医療をより質の高いものに変えていく努力を続けています。



患者さんに安心して治療を受けていただくために、医療用の椅子型診察台を基本に作られたフットケア専用のチェアを備えています。座面や足の角度、高さガリモコン操作で変えられるので、一人ひとりに合わせて調整します。



測定では、足長(足の長さ)、足幅(足の幅)、アーチの高さ、足圧(足にかかる圧力)の分布などを測ります。これらの左右の差などのデータを元に、なぜトラブルが出やすいのかを見ていきます。



医師の指示のもと、胼胝(タコ)・鶏眼(魚の目)、爪の処置、糖尿病足ケア、リウマチ足ケアなどを行います。それとともに、日々の生活においてご自身で行えるフットケアに関する方法なども指導します。



医療法人 徳洲会

## 福岡徳洲会病院

〒816-0864 福岡県春日市須玖北4丁目5番地  
TEL.092-573-6622(代表) FAX.092-573-1733

<https://www.f-toku.jp/>

福岡徳洲会病院 検索

### 紹介の事前予約についてのご案内

診療情報提供書(紹介状)をお送り下さい。

医療連携室直通FAX **0120-218-489**

【予約受付時間】9:00~16:00(平日)  
9:00~11:30(土曜) 日祝日不可  
紹介状に受診希望日をご記入ください。

FAX到着後、20分以内に予約日時を決定し、  
「紹介受付票」をFAX送信いたします。

診療科によって、  
予約日時の決定が後日になる場合もあります。  
その際は、紹介受付票の発行はせずに  
電話対応とさせていただきます。

「紹介受付票」を患者さんへお渡しください。

予約当日は、紹介状(原本)、紹介受付票、  
健康保険証をご持参いただきますようお願いください。  
※予約受付票を発行していない場合を除く

現在、事前予約を受付している診療科

皮膚科/眼科/心臓血管外科/ペインクリニック/放射線治療/外科/乳腺外科/下肢静脈瘤外来/歯科口腔外科

総合外来予定表は  
ホームページをご参照ください。  
2024-03-TEAM005

